

【子育て支援ネットワークの取り組み】

I：私は、香美市で子育て支援ネットワーク「ろばみみ」を開催しております。お母さんが元気だと子どもが元気、子どもが元気だと地域も元気ということを合言葉に、特に0歳児から就園までの子育て中のお母さんが、少しでも楽しく子育てできるようにと取り組みをしております。例えば、子育て広場や子連れで利用できるカフェの運営や情報誌の発行、香美市立美術館の協力での親子ワークショップの開催、地元農家の土地をお借りしての有機農業の活動にも取り組んでおります。エコ活動も行っており、行政・各団体とのネットワークづくりなども行っております。

伝える、学ぶ、集う、結ぶ、暮らす、広げるということをキーワードに様々な活動を行いながら、私たち自身もそこで喜びを得ながら、日々活動している状況です。

課題点としては、これはボランティア活動なので、携われる人材が限られています。こういった活動は終わることのないものですので、人材の確保や育成、それから継続させていくことの大変さを日々痛感しております。

また、子育てというものに対してもそれぞれの価値観も違いますので、子育てに大切な情報を押しつけにならないように、ただ伝える事の難しさを感じています。それから、専門的なカウンセラーまでは億劫だという子育てに悩むお母さんたちから、私たちがボランティアでいろんな問題点についてお話を伺う機会があります。そのなかでの確かなアドバイスをするために自分たちも勉強がまだまだ必要だなということも感じています。

あと非常に難しいことかもしれませんが、今、教育現場で子どもたちの問題行動に対して現場なりに対応されていると思うんですが、本当に大事なのはお母さんのお腹に子どもが宿った時からと私は認識しています。やっぱり胎児の時代、それから0才児から特に3歳児までの間の母子の関係が、その後の子どもの成長に非常に大きな役割を果たしているということを痛切に感じております。それに対しての認識に温度差があって、県の(健康長寿県構想の)中で「次代を担う子どもたちを守り育てる環境づくり」なんかを見てても、やっぱり胎児であるとか、小さい子どもであるとかのことまでは書かれていない。以前、教育委員をさせていただいていたときに、教育委員会で5、6年前に、胎児への母親の影響、親の影響というものについての講習会もあって、すごくいいところに目を付けているなと思ったんですが、どうしても今起こっている問題に対して目がいつてしまっていると思います。

それよりも根の部分、生まれてきてすぐの子どもたち、お母さんのお腹の中にいるときの子どもたち、そのときのお母さんがどれだけ安定して子どもと向き合えるか、そういったことをやっぱり大事に考えていく必要性をひしひしと感じております。

今後の取り組みとしては、お年寄りの多い地域ですので、世代間を超えた交流の場づくりや、将来親になる高校生や中学生も、小さな子どもと触れ合える場を作ったり、幼児期からよりよい生活リズムを習慣づけることの大切さを伝えるとか、次世代の子育てを良いものにするために、地域ぐるみでの取り組みを考えていけたらなと思います。

そのためには、やはり専門的な立場の方や、行政、様々な世代の支援に携わる団体の方々とコミュニケーションをとっていくということも非常に大切ですし、子育て中のお母さんの心に寄り添った活動ができればと考えています。

知事：確かに、例えば、児童虐待に対してどう対応していくのか、どうやって仕事と子育てを両立できる体制を作っていくのか、いろんなことを進めてきていますが、どうしても問題が起こったことに対する対処療法的な面があるかもしれません。逆に言うと、それだけたくさん問題があって、次から次へと対応していかないといけないところがあるというのは、確かだと思いますが、ただ、だんだんと幼児教育なんていうところは当たり前になってきましたし、子育てに意図的に取り組んでいくことについて年齢層を下げていっていますが、ご指摘のとおり、より根源的なところにそもそも軸を打ち立てていくべきだと思います。胎児への対応ということについて、多分まだいろんな考え方があるかもしれませんが、少なくとも妊娠中の方のケア、心理的なケアなんていうのは当然対応していかないといけないことなんだろうと思います。

ちょっといろんな角度からの話になりますが、今我々として非常に力を入れているのは、小学校から中学校にかけての対策と、次に放課後対策というものに力を入れているんです。子どもたちができるだけ集うように、そしてまた単に集うだけじゃなくて、そこでいろんな学びができるようにという方向で場を設定しようとしています。それから教育改革の取り組みの関係で、いわゆる子どもの放課後の学びの場づくりというのを今一生懸命やろうとしているところなんです。

それで、幼児の段階の対応ということはこれからだと思います。個々個別の対処療法的なことは確かにありますが、都会なんかでも今非常に問題になっているのは、待機児童対策ですが、本県の場合は、そういう問題はあまりないかもしれませんが、ただ延長保育をどう確保していくかなんていうことは、一つの課題になっていて取り組もうとしています。

もう一つは、お母さんたちに対して「親育ち支援」ということで、幼児教育の専門家の方に講師として来てもらうことなどをしてますが、おっしゃるとおり、より広範に押しつけにならない、それぞれのニーズに応じた形で対応できるような体制づくり、それこそ子育て支援ネットワークというのを県内全域に広げていくことは重要かもしれません。

実は子育て支援の話をもっと聞かせていただくことが非常に多くて、あちこちで子育て支援で頑張っておられる方々のお話を伺ってまして、（健康長寿県構想について）次のバージョン3にしていくときに、子育て支援をもう一段、根源的なところでちょっと研究させていただきたいと思っています。対処療法的なところからもう一步踏み込んだ部分を考えさせていただければと思います。